

小柴貯油施設跡地の現状について（報告）

令和2年8月25日に小柴貯油施設跡地で発生した事故の原因については、警察が捜査を進めているところであり、引き続き警察や労働基準監督署等関係機関に全面的に協力するとともに、庁内に「小柴貯油施設跡地の工事における安全対策の検討チーム」を設置し、当該跡地の特殊性を整理し、今後の安全対策を取りまとめ、11月25日に報告書として公表しました。安全対策を実施し、12月3日には工事を再開しています。

1 安全対策について

工事再開にあたっては、地下タンクがある第3期エリア等への進入路にゲートを設置したほか、地下タンク周辺にB型バリケードの設置といった安全対策を工事関係者の誤進入防止の観点から実施しました。

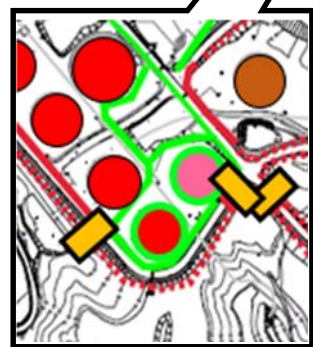
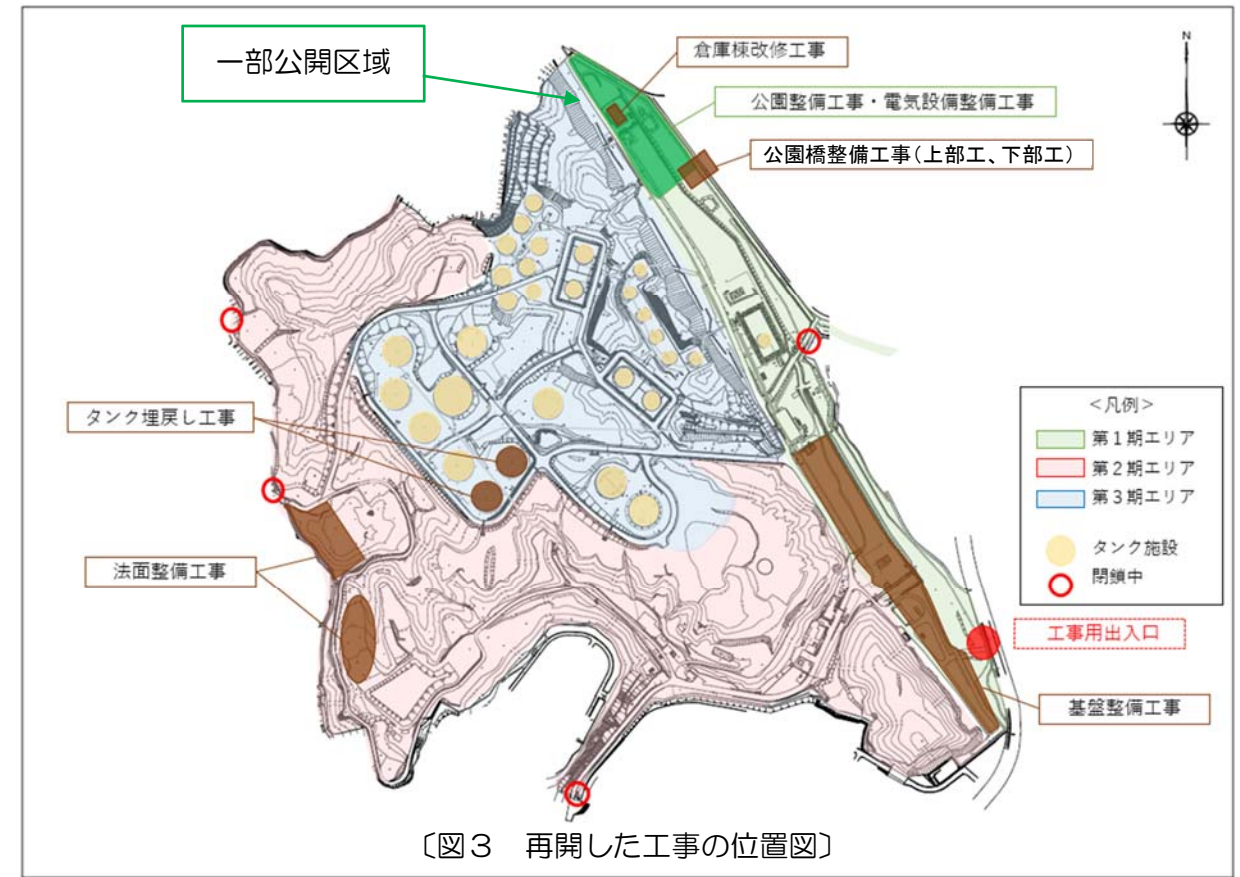
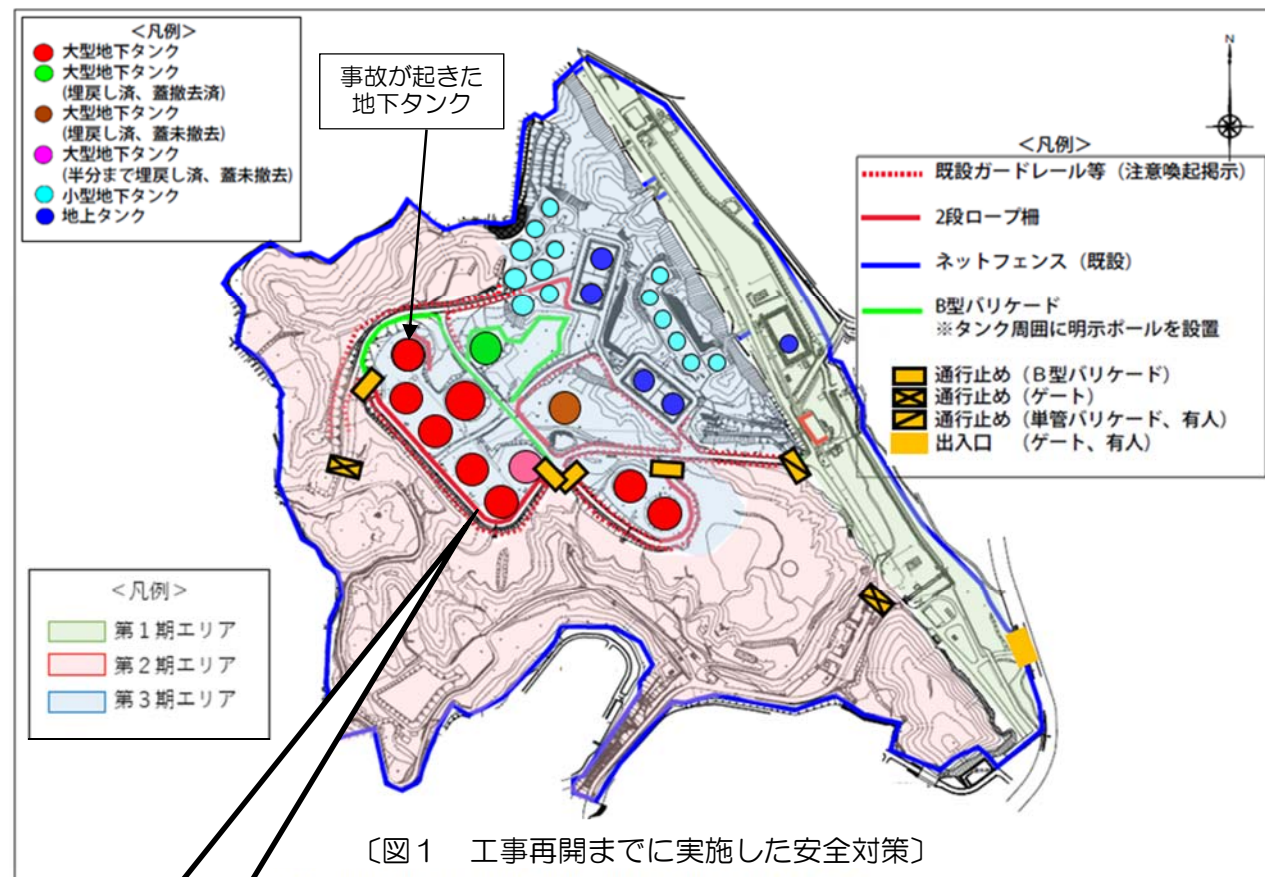
工事再開後、特に、第3期エリアで速やかに行う対策として、タンク埋戻し工事を安全に行うための柵を設置しています。

また、全ての工事関係者が工事安全対策協力会に参画する体制を構築し、定期的に工事内容等の情報共有を確実に行っていきます。

2 工事再開について

第1期エリアの一部公開区域において公園整備工事や公園橋整備工事、第2期エリアにおいて法面整備工事、第3期エリアにおいて地下タンク埋戻し工事（2基）などの工事を再開しています。

再開した工事の安全対策に万全を期し、第1期エリアの一部公開に向けて取り組んでいきます。



〔図2 工事再開後速やかに行う対策（B型バリケード）〕



〔写真1 ゲート設置状況〕



〔写真2 B型バリケード設置状況〕



〔写真3 公園整備状況〕



〔写真4 公園整備状況〕